

11月学院福音化 第一課 弟子テトス

テトスへの手紙

テトス 1:1-4

- 01 神のしもべ、イエス・キリストの使徒パウロから。——私が使徒とされたのは、神に選ばれた人々が信仰に進み、敬虔にふさわしい、真理の知識を得るために、
02 それは、偽ることのない神が永遠の昔から約束してくださいました、永遠のいのちの望みに基づくものです。
03 神は、定められた時に、みことばを宣教によって明らかにされました。私はこの宣教を、私たちの救い主である神の命令によって委ねられたのです——
04 同じ信仰による、眞のわが子テトスへ。父なる神と、私たちの救い主キリスト・イエスから、恵みと平安がありますように。

いつも柳先生が言われるのは、学院福音化の内容は、単にテキストをそのまま伝えるのではなく、多くの時間、集中して深く默想してフォーラムを分かち合うようにということです。深いフォーラムができるようになるためには、その内容全体をよく理解することが重要です。このテトスへの手紙は、1章から3章までですから、はやく読めば、全部読むのに4分ぐらいで読めます。皆さん、ぜひ、読んでください。必要ならば、インターネットを通してテトスへの手紙に関する内容を探して手紙の背景や、その後の話について調べてみてください。

<テトスについて>

テトスへの手紙は、他のパウロの書簡とは違い、受け取る人がテトスというひとりの個人です。そして、その中でテトスを「眞のわが子テトス」と書いています。
パウロの書簡の中には、13回ほどテトスという名前が書かれています。コリント人への手紙第二では、テトスは「兄弟」(2:13)また、「私の仲間であり、同労者」(8:23)だと紹介しています。新しい聖書には兄弟でテトスと書いてあります。

Ⅱコリント 2:13

私は、兄弟テトスに会えなかつたので、心に安らぎがありませんでした。それで人々に別れを告げて、マケドニアに向けて出発しました。”

Ⅱコリント 8:23

テトスについて言えば、彼は私の仲間であり、あなたがたのために働く同労者です。私たちの兄弟たちについて言えば、彼らは諸教会の使者であり、キリストの栄光です。

テトス 1:4 のみことばでは、「同じ信仰による」書いてあります。このことばは、パウロがイエス・キリストの御名を宣べ伝える器として召されたのと同じように、テトスも同じくキリストの福音を宣べ伝える働きに、ともに召された者だという意味です。そのように同じ信仰によって、兄弟、わが子になったということです。わが子として、ときには兄弟として、ときには同労者としてです。

だれでも、神様のみころを行なう者が、わたしの兄弟、姉妹、母なのですとイエス様がマルコ3:35で言われたことばが理解できるでしょう。

マルコ3:35

「だれでも神のみころを行なう人、その人がわたしの兄弟、姉妹、母なのです。」

マタイの福音書では、この世で兄弟姉妹をまた親を捨てた者は、その100倍の祝福を受けるというみことばもあります。これは、皆さんのおやこも、兄弟をすべて無視して、捨て去らなければならないと言っているのではありません。ひとりの父に仕える、すべてが兄弟であり、子ども、親になるということです。

私も個人的に私が父として敬っている方が何人かいます。また、私を息子と表現してくださる方も何人かいます。それは、すべて同じ信仰によって、一つの家族となったということです。



クレタについて

地中海に位置しているこのクレタ島は、「クレタ人はいつも嘘つき」ということばがあるぐらい、偽りと不道徳が蔓延していたところでした。

12節を見ましょう。

テトス1:12

クレタ人のうちの一人、彼ら自身の預言者が言いました。「クレタ人はいつも嘘つき、悪い獣、怠け者の大食漢。」

もっと深刻だったのは、テトスが牧会していたクレタ教会の中にも、偽りの教師たちが偽りの教えを広めていたということです。ですから、正しい信仰観を定めることができ、とても至急な所でした。

テトスへの手紙に書いてあるように、信仰の正しい生活を見つけることが難しいほど道徳的にも悪いことが広まっている所でした。その背景については、皆さん調べてみてください。

そのような所で牧会の働きをしていたテトスに、パウロは、クレタの人々の悪いところを指摘するとともに、まことの福音を持った者としての信仰生活、また社会生活についての、いろいろな規律を提示して、励まし、また勧告している内容が、このテトスへの手紙です。

それゆえ、テモテへの手紙第一、第二とともに、このテトスへの手紙は牧会書簡と呼ばれています。
今日は、ともに各章の内容を簡単にまとめてみます。また、テトスへの手紙に現れた福音のみことばを深く黙想していきたいと思います。

1章

まず、一章では、パウロがテトスをクレタ島の牧会者として立てた目的と、そして、その牧会の働きの重要な核心を5節に記しています。

テトス 1:5

私があなたをクレタに残したのは、残っている仕事の整理をし、私が命じたとおりに町ごとに長老たちを任命するためでした。

教会は、キリストを頭とした一つの体として立てられるためには、職分者を良く立てることが必須であり、とても重要であったので、職分者の条件について話しています。その内容は、6節から9節にあるので、皆さん、よく目を通して見てください。

06 長老は、非難されるところがなく、一人の妻の夫であり、子どもたちも信者で、放蕩を責められたり、反抗的であったりしないことが条件です。

07 監督は神の家を管理する者として、非難されるところのない者であるべきです。わがままでなく、短気でなく、酒飲みでなく、乱暴でなく、不正な利を求めず、

08 むしろ、人をよくもてなし、善を愛し、慎み深く、正しく、敬虔で、自制心があり、

09 教えにかなった信頼すべきみことばを、しっかりと守っていなければなりません。健全な教えをもって励ましたり、反対する人たちを戒めたりすることができるようになるためです。

重職者のみなさんが中で、この条件すべてがよく当てはまる重職者はいますか。少し厳しいかもしませんが、このような条件を備えなければならないという重要な理由が9節に書いてあります。教会の中には、いつも反対する人たちがいるからです。そのような人々のために健全な教えを伝え、ときには戒めたりするためにということです。ですから、教会の長老や、また監督というような指導者たちが、まず正しい福音のみことばで教えを受けなければならないと言っています。また、生活も、福音にふさわしい、神の子どもらしいアイデンティティを持った者として、模範となる姿を見せるべきだと言っています。信仰と生活が全くかけ離れてはいけないということです。

それなら、ここで言っている健全な教えとは何でしょうか。

その内容が2章と3章に記されています。

2章

パウロは、まず2章で、教会内の各階級の人々に、思慮深くあるようにと言っています。どのように階級を分けたのかを見てみましょう。

- 02 年配の男の人にには、自分を制し、品位を保ち、慎み深く、信仰と愛と忍耐において健全であるように。
- 03 同じように、年配の女の人には、神に仕えている者にふさわしくふるまい、人を中傷せず、大酒のとりこにならず、良いことを教える者であるように。
- 04 そうすれば、彼女たちは若い女の人に、夫を愛し、子どもを愛し、
- 06 同じように、若い人には、あらゆる点で思慮深くあるように勧めなさい。
- 09 奴隸には、あらゆる点で自分の主人に従って、喜ばれる者となるようにし、口答えせず、

2節には「年配の男の人」、3節には「年配の女の人」、4節には「若い女の人に」、6節は「若い（男の）人」
(原語には男の人を書いてあります) 9節には「奴隸」。このように性別、年齢、そして階級によって分け
て、どのように対処しなければならないのかということを記しています。
各階級がぶつかっている状況で、何に気をつけなければならないかという内容を書いたのです。先ほど言
ったようにこのクレタ島は、とても不道德で、性的に堕落していました。なぜ、そのようにしなければなら
ないのか2章11節にその理由を記しています。

- 11 実に、すべての人に救いをもたらす神の恵みが現れたのです。

このように神様の恵みを受けた者は、どのような生き方をするようになったのでしょうか。

12節から14節を見ましょう。

- 12 その恵みは、私たちが不敬虔とこの世の欲を捨て（過去）、今の世にあって、慎み深く、正しく、敬虔
に生活し、（現在）
- 13 祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるイエス・キリストの、栄光ある
現れを待ち望むように（未来）教えています。

12-13節に、過去、現在、未来、すべての問題が終わったと書いてあります。それゆえ、キリストはすべての
問題の解決者です。私たちは、そのような者になったことを信じます。
それなら、私たちは、どのように神様の救いの恵みを受け、過去、現在、未来の問題から解放され、まこと
の自由な者になったのでしょうか。

- 14 キリストは、私たちをすべての不法から贖い出し、良いわざに熱心な選びの民をご自分のものとしてき
よめるため、私たちのためにご自分を献げられたのです。

14節にあるように、イエス・キリストの十字架の贖いによってです。これが福音です。
これこそが、パウロが語っている「健全な教え」です。これをまず先に学び、それを語り伝える職分者を立
てるべきだと言っています。

3章

3章でも、福音の核心について説明しています。

救いの出発は罪から始まります。私が罪人であるということを先に知り、その罪が何であるのかを知る、そこから始めなければなりません。

3節を見ます。

テトス 3:3

私たちも以前は、愚かで、不従順で、迷っていた者であり、いろいろな欲望と快楽の奴隸になり、悪意とねたみのうちに生活し、人から憎まれ、互いに憎み合う者でした。

これは他の人のことではなく、私のことなのです。私たちは、みんなクレタの人と全く違う、そのような者ではありません。

旧約に出てくる人物1人を例にして見ましょう。ソドムとゴモラの滅亡のときに、そこで生き延びたロトと娘たちがいます。皆さんよくご存知のように、このロトという人は、自分の欲望のままに生きていました。創世記19:1 を見ると、御使いたちがソドムに着いたとき、ロトはソドムの門のところに座っていたと書いてあります。門のところに座っていたということは、ソドムとゴモラの時代にも、全ての判断を下すことができる権威を持っていたということです。そのようなソドムとゴモラが滅ぼされるとき、ロトは救い出されます。その内容は創世記19:29 からあります。

29 神が低地の町々を滅ぼしたとき、神はアブラハムを覚えておられた。それで、ロトが住んでいた町々を滅ぼしたとき、神はロトをその滅びの中から逃れるようにされた。

神様はアブラハムを覚えておられ、ロトを救い出してくださったのです。アブラハムは何をしたのでしょうか。5回も神様に祈って、神様の心を変えたでしょう。「義人50人いたら、滅ぼしますか。45人いたら40人いたら30人いたら」と言って、最後には「10人まで」誰もいませんでした。しかし、そのアブラハムの祈りを、アブラハムを覚えておられ、ロトを生かしてくださったのです。

そのように、私たちのためにとりなしてくださる一人イエス・キリストによって私たちを生かしてくださったのです。私たちが生きている、この場所がソドムとゴモラです。滅亡するしかない、エジプトであり、バビロンです。そこから、私たちを救い出してくださったのです。

イザヤ 53章12節に、イエス様のとりなしの内容が出ています。

イザヤ 53:12

それゆえ、わたしは多くの人を彼に分け与え、彼は強者たちを戦勝品として分かち取る。彼が自分のいのちを死に明け渡し、背いた者たちとともに数えられたからである。彼は多くの人の罪を負い、背いた者たちのために、とりなしをする。

イエス様が、私たちと同じ罪人のようになって、死んでくださったのです。そして、とりなしをしてくださいます。

このクレタ島の人たちのように、私たちはみんな、自分の欲望のままに不道徳な状態で罪を犯して生きてきました。そのような私たちに神様のいくしみと愛が、他の人たちより少しだけ早く現れただけなのです。

テトス 3:4-7

04 しかし、私たちの救い主である神のいつくしみと人に対する愛が現れたとき、

05 神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみによって、聖靈による再生と刷新の洗いをもって、私たちを救ってくださいました。

06 神はこの聖靈を、私たちの救い主イエス・キリストによって、私たちに豊かに注いでくださったのです。

07 それは、私たちがキリストの恵みによって義と認められ、永遠のいのちの望みを抱く相続人となるためでした。

これは、パウロが書いたローマ人への手紙の全体の主題でもありました。ローマ人への手紙だけではなく、パウロが書いたすべての書簡で語られている主題です。
「義人は信仰によって生きる」

救いは、イエス・キリストを信じる信仰による義、それ以外のどんなことによっても、どの方法によっても得ることができないのです。

イエス・キリストを信じることによって、そのイエス様の義を私たちに転嫁してくださったのです。それゆえ、私たちは義人とされました。それ以外には、どんなことも、どんな方法も、私たちに救いを得させることはできません。

テトス 3:5 にあるように、私たちの行いによるものでないということを知ってください。

このような脈絡で、2章14節、そして3章8節に記されている「良いわざ」とは、私たちから出てくる行いによってではないということを知ることができるでしょう。「良いわざ」については、以前の学院福音化のエンペソ人への手紙とピリ比人への手紙で語っているので、それを参考にしてください。

結論です。

テトスへの手紙は、単に教会を正しく立てるために、どのように職分者を立てるべきか、また、信じる者たちが教会の中で、この世の中での生活が、どうすべきかを教えるための、牧会書簡ではありません。牧師であっても、宣教師であっても、重職者であっても、すべてがキリストの弟子として、ただイエス・キリストと十字架と愛を伝える、福音の専門宣教師であるということを悟らせてください、神様のみことばなのです。